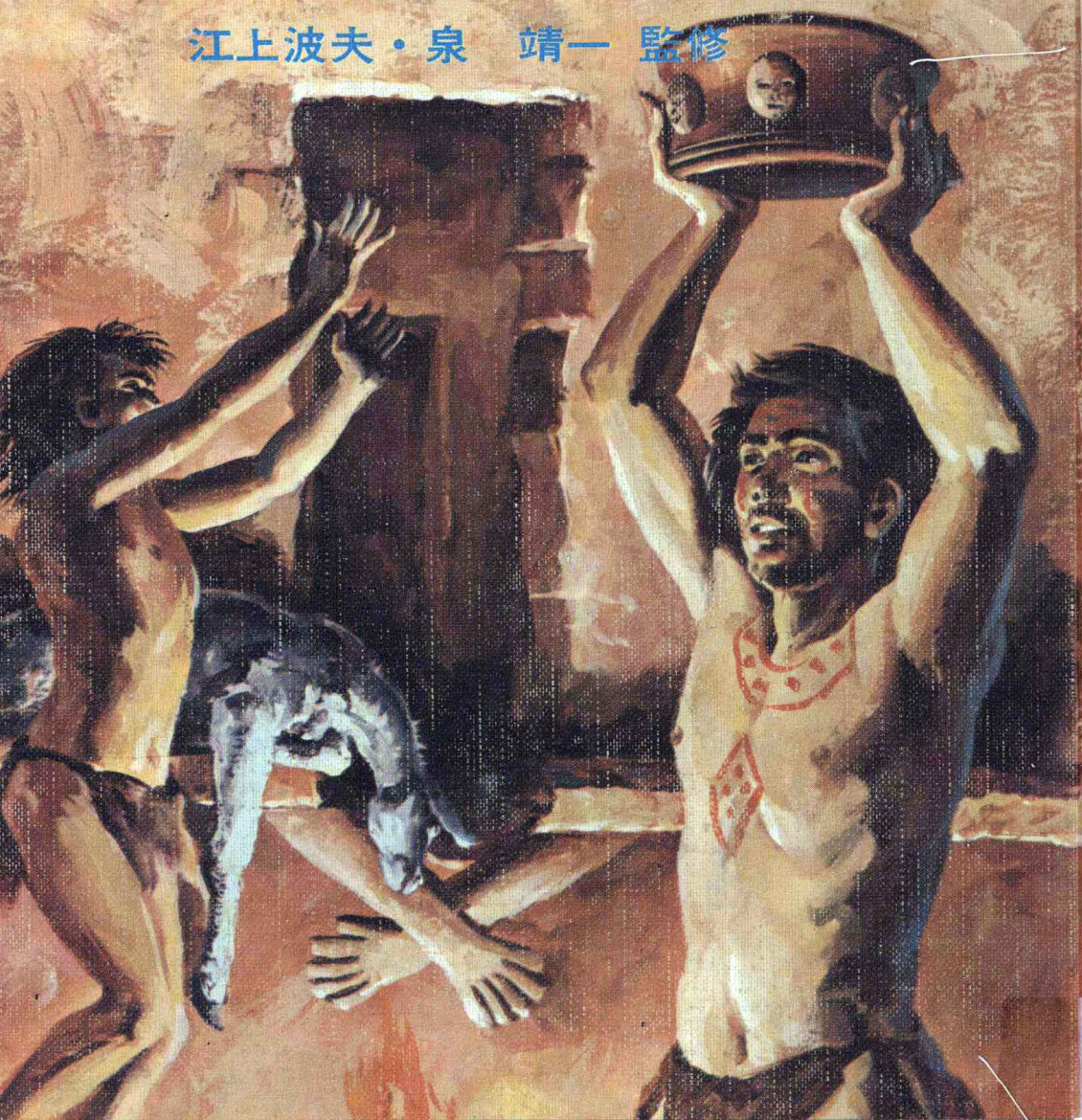


古代発掘物語全集

手のある神殿の秘密

江上波夫・泉 靖一 監修



著者／たかしよいち 解説／寺田和夫

二上波夫・泉 靖一 監修

古代発掘物語全集

7

手のある神殿の秘密

著者／たかし よいち

解説／寺 田 和 夫



国 土 社

たかし よいち

手のある神殿の秘密

国土社 1972

222p 22cm (古代発掘物語全集 7)

基本カード記載例



■手のある^{しんでん ひみつ}神殿の秘密 <検印廃止>

古代発掘物語全集 7

1967年12月5日 初版発行

1972年9月20日 6版発行

定 価/580円

著 者/たかし よいち

発行者/長宗泰造

印刷所/株式会社厚德社

発行所/株式会社国土社

東京都文京区目白台1の17の6

電話 (943) 3721代表

振替 東京 90631

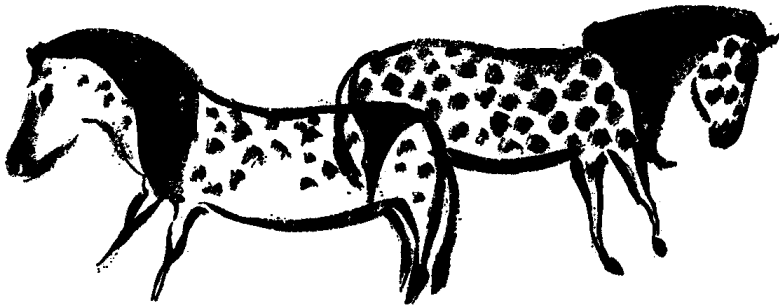
乱丁・落丁の本はおとりかえいたします

みなさんへ

なん千年、なん万年という大むかしには、わたしたち人間の祖先^{そせん}は、いったいどんな生活^{せいかつ}をしていたのだらう——それは、だれしも興味^{きょうみ}をもつことがらです。

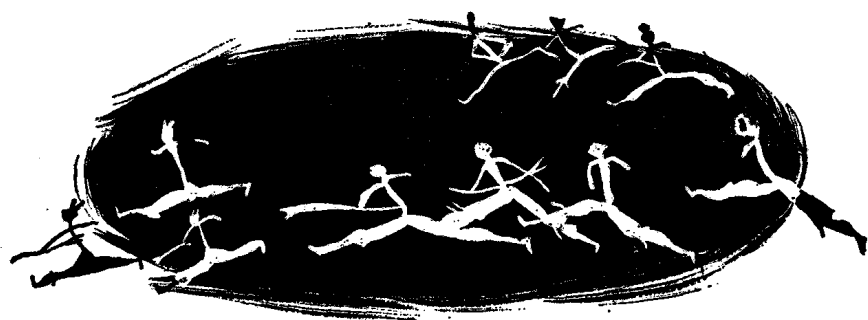
そうした大むかしのことをしらべるのが考古学^{こうこく}です。考古学者^{こうこくしや}のしごとは、ほとんどが人里^{ひとざと}はなれた不便^{ふべん}なところで、毎日^{まいにち}毎日^{まいにち}土ほりにあけくれる、とてもつらい生活^{せいかつ}です。

このような考古学者^{こうこくしや}たちの、とうといしごとをみなさんにしっていただくためにまとめたのが、このシリーズです。

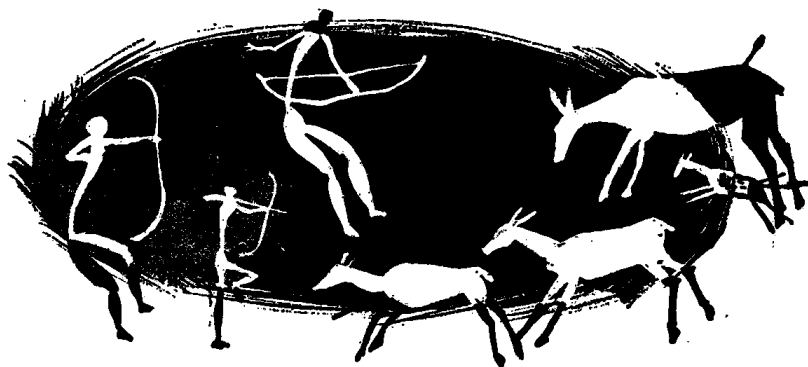


もくじ

みなさんへ	1
石の小山にいどむ	6
手足がくさつてもやるぞ	12
考古学者 こうこがくしや つてすばらしいぞ	32
発掘開始 はつくつかいし	37
なぞの城 しろ あと	46
おじさん、がんばれ！	67
インカ帝国 ていこく のひみつ	70
神 かみ へのいけにえ	78



悪魔を追っぱらえ.....	87
氷づけの少女ミイラ発見！.....	100
ゾウを追う狩人たち.....	111
二万年まえの祖先たちのこと.....	117
手のある神殿の大発見.....	121
ゾウの道をたどって.....	157
太陽と神の神殿.....	170
黄金像のゆくえ.....	183
砂漠のミイラ.....	196
アンデスの古代の文明へ寺田和夫.....	212





手のある
神殿しんでんの
秘密ひみつ



石の小山にいとむ

太郎くんお元気ですか。

ぼくはいまはるかに遠い南アメリカのペルーから、きみにあてたおたよりをかいています。あかあかとかがやく電燈の下で、こうして手紙をかいていると、なんだか地球のうらがわににいるなんて、うそのようです。

近くのテントから発電機のモーターのうなりがきこえてきます。とにかく、このテントを一步でれば、それこそ岩山とサボテンと砂とにかこまれた、とてもへんぴなところですよ。

ぼくたちは、いまそこで、コトシュという大むかしの遺跡をほっています。



コトシュというのは、インディアンのことばで、「石の小山」といういみです。なにしろ、高さが十四メートル、はば百メートル四方の、かなり大きな小山で、それがみんな、ずっとずっと大むかしに、インディアンたちの祖先^{そせん}が、石とれんがで、きずいたものなのです。

もちろん、いちどにこんな大きな小山ができたわけではありません。何百年ものあいだに、だんだんと上に上につみ重^{かさ}なって、高くなったのです。

ぼくたちは、そこをほるのです。いったいなにがでてくるか！

太郎 太郎くんだと、すぐに、

「すごい宝たからもの、インカ帝国ていこくの秘宝ひほう！」

なんて、いだしそうですが、まあ、それはちょっと期待きできそうにありません。もちろん、すっかりほってみなけりゃ、わかりませんがね。

ぼくたちは、なにもインカ帝国ていこくの、かくされた宝たからものをさがしにやってきたわけではないのです。

南アメリカの大むかしにすんでいた人たちが、いったいどんな生活せいかつをしていたのか、それがしりたいのです。

おそらく、この石の小山をほっていけば、いろんなものがでてくるにちがいありません。それをひとつひとつ、しらべていけば、大むかしの人たちの生活せいかつがわかります。なにをたべ、どんな家にすみ、どんなくらしをしていたか……。

まあ、とにかく、発掘はつくつは、はじめたばかりで、まだ目ぼしいものはなにもでていません。しょうぶはこれからです。

あ、そうそう、かんじんなことをわすれていました。

じつは、太郎たろうくんに、いまこうして手紙をかいているのは、きみに、ごしょうかいしたい少年しょうねんがいるからです。

いきなり、そういうと、きみもびっくりするでしょうが、あいての少年しょうねんが、どうしてもきみとともだちになりたいっていうんでね。

その少年しょうねんのなまえは、カルロス・ゴンサレスくん、ワヌコ小学校四年生のわんばくぼうずです。

いっしょに写真しやしんをそえておきましたから、ごらんください。

どんぐり目玉で、鼻はなったらし、それに前歯まえばのかけた、ちびっこです。

こちらはいまは冬やすみですが、カルロスくんのおとうさんは、ぼくたち発掘隊はつくつたいのペオン（土ほり人夫にんぶ）です。

だから、カルロスくんは、おとうさんといっしょにやってきたのです。カルロスくんは、とても人なつこくて、ぼくたちとすぐにもだちになりました。ぼくが太た

郎くんの写真しゃしんをみせて、

「これ、おじさんの、おいの太郎たろうってんだぞ。日本の小学四年生」

といったら、カルロスくんは、大よろこびで、きみの写真しゃしんを見つめながら、

「セニョール（おじさん）、ぼく、日本の少年しょうねんとアミーゴ（ともだち）になりたい」
っていうんです。

きょう、発掘はつくつがすんで、テントにかえってくると、カルロスくんは、さっそく、きみにあてた、手紙をもってきました。四年生にしては、どうして、どうして、なかなかうまいものです。

もちろん、ことばがちがうのだから、そのままじゃとてもわかりっこありませんね。そこで、ぼくは、セニョールとしての責任せきにん上、カルロスくんの手紙を日本語にになおして、きみにおくることにしました。

きみからも、おたよりをあげてください。そしたら、さっそく、ぼくはそれを、こちらのことばになおして、カルロスくんにわたしましょう。

では、このへんでカルロスくん、バトンタッチといきましょうか。

それはそうと、夏やすみには大いにからだをきたえてください。

きみは、ぼくみたいなこうこがくしや考古学者になりたいっていうけど、こうこがくしや考古学者になるには、まず、じょうぶなからだであること。どんなへんぴな山おくても、あついあついジャングルや砂漠さばくでも、何年もへこたれずにやれるからだをもつことです。へなへなしたからだでは、とても役やくに立ちませんよ。

おとうさんや、おかあさんにも、よろしくつたえてください。

いま、おみおくりにいただいたアメ玉をしゃぶり、しゃぶり、この手紙をかいています。

おじさんより

太郎たろうくんへ

手足がくさつてもやるぞ

プエナス・タルデス！（こんにちは）ぼくカルロス・ゴンサレスです。

ペルー国、ワヌコ小学校 四年Aぐみ、三十二番（ぼくの組はみんなで三十二人）、ぼくの学校は、からだの大きなじゅんじょだから、ぼくは、クラスでいちばんチビです。でも、おとうさんは、

「なあに、いまに、ぐんと大きくなるよ。おれだって、小さいころは、チビ、チビって、からかわれてた」と、いっています。

おとうさんは、いまでは、だれにもまけないほど大きなからだで、ちからもちて

す。日本発掘隊はつくつたいのペオンなんだから、とてもえらいんです。

ぼくも、大きくなったらおとうさんみたいな、りっぱな人になります。うんとべんきょうして、日本のドクトルこうこ(先生)のような考古学者がくしやになろうとおもっています。ドクトルから、きみのことをききました。タローって、とてもいいなまえのような気がします。日本で「男の子」っていういみだといいました。

きみも四年生だそうですね。それに、大きくなったら、ドクトルとおなじような考古学者がくしやになるんだそうですね。

「これじゃ、おれもまけておれないぞ」

と、ぼくはおもいました。

でも、ぼくたちはともだちです。ドクトルはとてもいい人だから、きみもきっといい人にまちがいありません。きみと、いま、あく手できたら、どんなにいいだろう……なんて、ぼくはおもいます。でもね、いくらなんでも、地球ちきゅうのうらがわにまでとどく長い手をもっているはずないんだから……。



いたかったので、なみだが、ポロポロでました。

「すぐにまた、はえてくるから、しんぱいしなくてもいいよ」

と、おかあさんがなぐさめてくれました。

ぼくたちは、いま冬やすみです。日本は、いまがあつい夏なんですってね。こちらは冬も夏もおなじような気温きおんです。

ぼくの写真しゃしんは、フィエスタ（おまつり）のときに、うつしたものです。着きているのはポンチョという、布ぬののまんとです。

前歯はがかけているのは、二年生のとき、ともだちとあばれていて、高いところから、おっこちたせいです。いたかったのなんのって……あまり